

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

（代表者 石田 健司 会員数 約60,000人）

T E L 03-3267-8583

1 前文

今年で6年目となる共通テストは、2022年4月の学習指導要領の改訂に伴う新課程の下で実施されている。令和8年度の『英語（リスニング）』においても、聞き取った音声を基に内容を理解し、他の表現に言い換えたり、複数の情報を統合したりする力を問うことで、「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力等」を総合的に評価する出題がなされた。

今年度も、日常生活や学校生活に関連した場面に加え、講義内容を整理し他者と共有・議論する場面が設定されるなど、「聞くこと」と「話すこと [やり取り]・[発表]」を統合した言語活動を反映した出題が見られた。特に第5問では、講義理解に加え、ワークシートの完成や複数の情報を統合的に処理する問題が出題されている。大問数6問、設問数37、配点や読み上げ回数は前年度と同様であったが、図表やイラストを活用した問題や複数情報の整理を要する問題が多く、情報を処理・判断する力がより求められる試験となっている。

平均点は54.65点であり、前年度（61.31点）から6.66点低下した。語数や設問数に大きな変化が見られない中での平均点低下は、情報処理の負荷や言い換えの難易度の上昇が影響していると考えられる。『英語（リスニング）』は多くの受験者が選択する科目であることから、今後も適切な難易度設定と丁寧な作問が求められる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

令和8年度の共通テスト『英語（リスニング）』は以下のような構成であった。

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	28	4	A：短文内容一致問題	2
		4	B：短文イラスト選択問題	
2	12	3	対話文イラスト問題	1
3	18	6	対話文選択問題	
4	12	8	A：モノローグイラスト並べ替え問題	
		1	B：複数のモノローグ選択問題	
5	16	7	講義内容選択問題	
6	14	2	A：対話文（2者）選択問題	
		2	B：対話文（3者）選択問題	
合計	100			

前文でも触れたが、出題形式、配点、読み上げ回数については、大きな変更はなかったと言える。

今年度の問題も、イラストやグラフ、図表が数多く使用されていたり、単純な英語の聞き取りだけではなく、様々な場面や目的に応じた思考力や判断力が問われている。また、話者についてもアメリカ人だけではなく、日本人を含む多様な話者が含まれていた。また、共通テスト開始当初に懸念されていた各問の解答時間については、いずれの問においても十分に確保されており、問題は解消されていると考える。

第1問 短い発話を聞いて、内容と合致する選択肢を選ぶ問い。Aは短い発話を聞き、短文の選択肢から正解を選ぶ問題である。Bは短い発話を聞き、その内容と合致するイラストを選ぶ問題である。Aは4問で構成されているが、正答率を見ると問1・2はいずれも50%を下回っている一方で問3・4はそれぞれ67%、55%程度となっていることから、試験冒頭でつまづいた受験者が多かったことがうかがわれる。

[A]

問1 人物の性格についての描写。「クラスメイトにダンスを見せることを厭わない」ことについて、読み上げられた“never hesitates to perform”の部分が聞き取りとしてはなじみが薄い表現であったかもしれない。

問2 「息子が病気なので今日は仕事に行けないかもしれない」という内容から話者の状況を説明する選択肢を選ぶ問題だが、“afraid”に惑わされた受験者が多かったのか、正答率は38%程度と低かった。

問3 「Davidが初めてスケートをしたときにとても怖がっていたことを忘れない」という発言と一致する選択肢を選ぶ問題。使われている表現も平易である。

問4 発言内容から話者の意図を理解する問題。Shall we～の提案内容が聞き取れれば適切な選択肢を選ぶことができる。

[B]

問5 発言内容から描写された人物の場所と服を聞き取る問題。典型的な表現ばかりで平易な問題である。

問6 二人の会話の状況を描写したイラストを選ぶ問題。“ruler”, “extra” がやや耳慣れないかもしれないが、80%以上の正答率であり、平易な問題であったと言える。

問7 発言内容から状況を選ぶ問題。聞き取る英語も非常にシンプルで、イラストも分かりやすい。

問8 場面を描写した英文を聞き取る問題。前半の“The turtle is now leaving the beach”だけ聞き取れれば解答できる。選択肢のイラストを工夫すればもう少し難度を上げられるのではないか。

第2問 日本語で書かれた場面について短い対話を聞き、その内容と合致するイラストを選ぶ問題。設定された場面やイラストにやや不自然な部分があり、昨年度より正答率が下がっている。

問9 場面設定とイラストのいずれも改善が求められる。「昔と今の違いを話している」ことが受験者に理解されれば十分なはずであり、卒業生や小学校は余計な情報に感じられる。また、イラストに描かれたfenceも“out of”の聞き取りの錯乱肢として設定されたと思われるが、fenceがなくても問題として十分成立すると考える。

問10 ゴルフの練習方法について聞き取る問題。“indoors”, “virtual reality”から容易に解答できる。正答率も93%程度と高い。

問11 タンポポの成長について、話者が興味のある段階を聞き取る問題。冒頭の聞き取りがやや難しく思われるが、最後の男性の発言を聞き取れば確実に解答できる。

第3問 第3問より音声は1回しか流れない。本問全体の得点率は55%ほどで、やや低い。2.5～3往復の対話を聞き、設問に答える問題で、第2問と同様に日本語で対話の場面が記されている。対話の概要や要点を把握する力に加えて、聞き取った内容を言い換える（パラフレーズする）ことや、発言内容から意図を推察する力も求められている。

問12 発言内容から男性が本を選ぶときに考えていることを答える問題。男性は“library”で本を選び、女性は“bookstore”に行くこと、また、男性が、本を選ぶのは“Easy!”と発言していることも解答の手助けとなる。

問13 男性と女性の春休みの過ごし方について聞き取る問題。“What is true～?”という問い方にやや戸惑った受験者もいたかもしれないが、表現自体は難しいものでない。

問14 スポーツジムで女性が最初にやることを答える問題。“apply for”や“submit”などの表現も定着していると思われ、第3問で出題される典型的な問題といえる。

問15 ホテルで予約の確認をしている場面。質問文は“What did the man do?”と過去の行動について尋ねている。

問16 発言内容から男性の意図をくみ取って答える問題。“I’d be late for work.”を根拠に正解の“Get to work on time”を選ぶ。発話の抑揚等も解答の助けになるはずだが、正答率はわずか36%程度である。

問17 対話の内容から女性の到着時間を答える問題。時間の聞き取りがポイントとなるが、使われている表現も“I have an appointment”や“It’ll take”など典型的なものであり、難易度は高くない。正答率は70%を超えている。

第4問 Aはやや長めの発話の内容から情報を整理する問題。前半は勧められた行動を示すイラストを順番どおりに並べ替える問題。イラストのうち1つは発話内容とは異なる行動を示していた。後半はイベントの内容についてまとめた表に適切な選択肢を当てはめる問題だった。Bの4人の話を聞き取り、条件と合うものを選ぶ問題は、正答率も75%程度と高く、受験者も共通テストの出題形式に慣れてきた様子が見える。

問18～21 高等学校への行き方についての説明を聞き、勧められた行動を順番どおりに並べる問題。2種類のバスの乗車・降車の位置をそれぞれ聞き取る必要がある。また、料金支払いのタイミングについても言及されているが、これは解答には影響しない。使用されている表現も標準的なものばかりであり、“just ignore the line of people”から不要なイラストを選ぶことは難しくなかったと思われるが、正答率は22%程度と非常に低い。バスの乗降を示すイラストの違いが受験者に伝わりづらかったのではないかと想像する。また、「ある学校までの行き方」について、というよりは「それぞれのバスの利用方法」が問われたため、受験者が何を聞き取るべきかの焦点がずれたことも考えられる。

問22～25 留学先でのキャリアフェアでの司会者の説明を聞き取って表を完成させる問題。“teacher”が“education”に、“nurse”、“engineer”がそれぞれ“health”、“technology”に言い換えられているが、tableごとに説明されるため、混乱は少なかったと思われる。正答率も高かった。

また、選択肢は2回以上使っても良いとなっていたが、複数回使用する選択肢はなかった。

問26 自習する場所を選ぶためにクラスメイトから話を聞き、最も条件に合うものを答える問題。3つの条件について確認をしていく必要があるが、実際に全ての条件について明確に言及しているのは正解となった“Millennium Common Area”だけである。受験者はそれぞれの説明を聞きながら表に書き込むことで即座に内容が確認できる。plug in等、やや高度な表現も含まれているが、それ以外の部分で十分に内容が推察できるため、正答率も高かった（約75%）。

第5問 第5問では、今年度も「状況」に加え「活動1」～「活動3」が示された。各設問において、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を問う問題を、「リスニング」という試験において出題することへの創意工夫が感じられた一方で、改善すべき部分も残されていると感じた。講義の内容は水産養殖についてであった。

問27 講義で述べられている大意をまとめた文である、ワークシートの冒頭の空欄箇所に適切なものを選ぶ問題。正答率が59%程度であることから、標準的な受験者は講義についての大意把握はできていたと考える。

問28～31 活動1として、ワークシートの空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。いずれの選択肢も単語で、昨年度と異なり標準的なものであった。しかしながら問28・29の正答率は13%程度と大変低い。読み上げられた音声を言い換えた選択肢を選ぶという作業が求められる。問28は“common”を“widespread”，問29は“great financial rewards”を“profitable”へと言い換えることが求められたのだが、問29については、その直前で期間についても言及があり、“over the past 30 years”）、ワークシートの“worldwide”と読み上げられた“in the international market”との関連に気が付かなかった受験者も多かったのではないだろうか。また、“highly”に続く語として適切なものを選ぶ必要がある、という意味においてはかなり難易度の高い問題であったと言える。問30・31についても正答率は35%程度と低い。この部分については講義の内容のポイントとなる部分を問うているという点で適切な問題であり、問31の“reused”については聞き取れた受験者も少なくなかったと思われるが、問30の該当箇所となる“get fewer deadly diseases”と直前の“grow faster”が連続していたため聞き漏らしているかもしれない。

問32 昨年度に続き試作問題からの出題。活動2として、講義の要約を書く準備をしている場面。講義内容について2人の発言を聞き、その正誤を答える問題。いずれも講義の一部を端的にまとめたもので、現在はそれぞれ一文だが、もう少し情報量を増やしても良いかもしれない。また、続く活動3では登場人物名がでてくるので、活動2においてもグループメンバーA、Bではなく名前を与えた方がより第5問の統一感が強まるのではないか。

問33 活動3として、3人で図表を見ながらディスカッションの準備をしている場面。本問では、講義の内容を踏まえ、複数人の意見を聞き取り、図表を読み取り、選択肢の内容を読み取らなければならない。実際の授業前後の活動とも類似性が高く、思考力・判断力を問う問題としても適切と言える。また、昨年度も指摘させていただいたが、このような出題により高等学校での授業変革が促されるという観点においても良問である。

第6問 Aでは2人の対話を聞き、問いの答えとして適切なものを選ぶ問題。「フランス語の授業」がテーマだった。読み上げ音声は標準的な語彙・表現で構成されている。ただし、昨年度同様、問34と問35の正答率は前者が68%程度に対し後者がわずか21%程度と大きく異なっている。一方Bでは音楽の聴き方について3人が話す内容から、それぞれの立場を理解する力と、考えの根拠となるデータ（図表）を判断する力が問われた。

問34 話者の一人（Derek）が示した意見を選ぶ問題。

問35 もう一人の話者（Jessica）が決めたことを選ぶ問題。

上述のように、正答率が大きく異なっている。要因として“on-demand online class”と“real-time online class”という2つの選択肢でやや混乱した受験者がいたかもしれない。また、Jessicaの決断を示す発言となる、“I will take advantage of those extra benefits”について聞き逃すと“face-to-face class”を選択してしまう可能性が高い。

問36 会話の最後で3人の話者がどのような立場にあるかを問う問題。話者の数は昨年度と同じ3人だった。「以前よりも音量を下げよう」と態度を変化させた人数が問われたが、VickyとTetsuyaはそもそも態度を変える必要がなかった。

問37 Vickyの発言の根拠となる図表を選ぶ問題。標準的な正答率であったが、やや難解なグラフも含まれていた。

3 総評・まとめ

本稿では令和8年度共通テスト『英語（リスニング）』について検討してきた。問題全体としては、日常生活や学校生活に即した場面を扱い、聞き取った情報を整理・判断し活用する力を問う出題がなされており、技能統合的な英語力の評価として意義のあるものであった。「文字や音声による試験の特徴を生かしながら」、「可能な限り総合的な英語力を評価する」という方針の下、多様な場面や形式を通して思考力・判断力・表現力等を評価しようとする作問には、多大な労力と高度な専門的知見に基づく創意工夫が必要である。ここに作問者の努力に対して深い敬意と謝意を表したい。

一方で、今年度は平均点が前年度より6.66点低下しており、一部の設問では受験者にとって負荷の高い問題が見られた。例えば、第4問の並べ替え問題（問18～21）は正答率が22%程度と極めて低く、イラストの判別の難しさや設問の焦点の不明確さが影響したと考えられる。また、第5問のワークシート補完問題（問28・29）も正答率が13%程度と低く、言い換えを一度の聞き取りで処理する負担が大きかった。思考力・判断力を問うことは重要であるが、図表やワークシートを用いた問題では情報処理の負荷が増大し、リスニング以外の要素が得点に影響する可能性がある。また、言い換えを伴う設問では、一度の聞き取りでの対応が難しい場合も見られた。難易度調整に当たっては、情報量の増加ではなく、語彙や話題の抽象度、発話速度などを工夫することで、「聞く力」を適切に測ることが望ましい。今後も受験者が高等学校で培った力を十分に発揮できるよう、適切な負荷設定と継続的な改善が求められる。

4 今後の共通テストへの要望

今年度は平均点が前年度より低下しており、情報処理の負荷や言い換えの難度の上昇が影響していると考えられる。思考力・判断力を問う出題は重要であるが、受験者の作業量が過度とならないよう配慮が必要である。特に、図表やワークシートを用いた問題については、設問の焦点や情報の提示方法を整理し、受験者が音声理解に集中できるよう検討をお願いしたい。また、言い換えについても、一度の聞き取りで対応可能な範囲に収まるよう配慮することが望まれる。

難易度調整は、資料の増加ではなく、語彙レベルや話題の抽象度、発話速度等により行うことが望ましい。さらに、「可能な限り総合的な英語力を評価する」という方針を踏まえ、スピーキングやライティングを含めた技能統合型評価の在り方についても検討が求められる。近年はICT端末やAIによる音声認識・自動採点技術の発展により、採点期間と採点の公平性の課題にも改善の可能性が見られる。民間試験の知見も踏まえ、発信力を測る新たな試験の在り方について段階的かつ計画的な検討を期待したい。共通テストの出題は高等学校の授業改善に影響を与えるものであり、4技能を統合的に育成する方向性を示すことが重要である。